

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 特定非営利活動法人 実用日本語教育推進協会

1. 事業名称

地方における外国人の効果的な日本語会話習得と“日本語の達人ボランティア”の育成

2. 事業の目的

- ・日本語の学習の機会にめぐまれない地域在住の外国人の日本語会話の上達
- ・地方での日本語支援ボランティアの底辺拡大と教え方のスキルアップ
- ・ボランティアでも教えられるテキストに準拠した副教材の作成

3. 事業内容の概要

兵庫県下の外国人数は約 10 万人、そのうち半数近くが神戸市に在住している。これら外国人のうち教育機関で学んでいる外国人は合わせても 6000 余人しかおらず、(留学生 4,637 人、就学生 1,503 人)、教育機関で学んでいない生活者としての外国人が圧倒的多数であることが分かる。

日本語教育機関が少ない地方においてはボランティアが外国人の日本語教育を担わなければならないが、総務局の 24 年の統計によると(※1)、過去 1 年間に何らかのボランティア活動をおこなった人は 25%に上るが、行動者を種類別に見ると「国際協力に関係した活動」が最も少なくなっている。当協会の講師は兵庫県登録日本語講師として、また、当協会主催の「にほんごサロン」でも、ボランティアの実情を見る機会が多いが、日本語教育の知識や教育経験の乏しい日本人が効果的な日本語指導を行うことはかなり難しいのが現実である。

当協会では、設立以来、ボランティアでも、効果的に教えられるテキストと指導書を作成し、それらを使ってきちんと日本語が教えられるボランティア日本語支援者の育成を続けている。文化庁委託事業として、当協会が教え方を身につけたボランティアが育ち、彼らがそれぞれ住んでいる地域の日本語教室などの核となって効果的な日本語支援を広めていくことがこの事業の狙いである。この事業の中心となる場は日本語教育のプロ(大学・日本語学校などの講師)とボランティアが協働して運営する「日本語交流サロン」(22 年度・23 年度・24 年度・25 年度文化庁委託事業)である。このサロンでは毎回、各国から来日した外国人がプロ講師の指導の下、ボランティアと共に熱心に日本語学習を続けている。こうした形式は全国でも類を見ないと自負している。

このサロン活動が外国人にとっての効率的な日本語教育と日本人にとっての効果的な教え方を学ぶ場となるためには、ボランティアでも使えるテキスト・指導書や副教材の作成が不可欠であ

る。ここ数年間の活動により、当協会の講座終了者が各地のボランティア教室で活躍し、さらにはボランティアの指導に当たるまでの指導力を身につけた「達人ボランティア」も育ち始め、日本語支援者の底辺の拡大とレベルアップに寄与している。

※1: <http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk11/oshirase-sougoude-ta/documents/2468.pdf>

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開 講 日 時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成 24 年 7 月 28 日	3 時間	アビエス フィルマ	瀬古悦代、 野村登美子 砂山順子、 山本雅宣、 高畑笙子、 柿原美由紀 浅田まり、 慶野法子	・今年度文化庁委託事業の説明 ・サロンの運営と日本語の達人養成についての概要説明 ・インストラクター勉強会のサポートについて ・テキスト副教材作成にインストラクターの協力を依頼する件 ・テキスト副教材作成プロジェクトの件 ・神戸いきいき財団主催の社会貢献塾での活動紹介の報告	・サロンはこれまで通り御影と元町の両会場で継続して開催しているが、学習者、日本人見学者など増えているので、会場をどうするか等について事務所移転も含めて検討。達人養成については実習を前もってスタートさせる ・インストラクターによる自主的な勉強会へ THANK's から講師を1人アドバイザーに派遣することにする。 ・勉強会のメンバーの中から人選する ・テキスト副教材が必要だという声が高かったが、この度、文化庁委託事業として、作成プロジェクトを立ち上げることにした。 ・定年退職後の社会貢献活動に外国人に日本語を教えるボランティアを希望する人がかなりいることが分かった。今後も積極的に広報活動をして、ボランティアの裾野を広げることを確認。
2	平成 24 年 9 月 8 日	3 時間	アビエス フィルマ	瀬古悦代、 野村登美子 砂山順子、 山本雅宣、 高畑笙子、 柿原美由紀 浅田まり、 慶野法子	・遠隔地にある日本語教室のボランティア研修会について ・テキスト副教材作成プロジェクトの進捗状況報告 ・「にほんごの達人講座」の件	・外部より依頼のあった研修会にはインストラクターとともに出向し、日本語の教え方の実践指導をする。 ・教材作成会議で文化庁のカリキュラム案を取り入れながら各課毎に作成していく。既に1課分の体裁は決定 ・「にほんご達人講座」はレクチャーは11月開催とする ・が前倒しで実習をスタートする ・講座内容について、外国人との実践に重点を置くことなどについて検討

3	平成 24 年 10 月 13 日	3 時間	アビエスフ イルマ	瀬古悦代、 野村登美子 砂山順子、 山本雅宣、 高畑笙子、 柿原美由紀 浅田まり、 慶野法子	・三木市国際交 流協会での研 修会の報告 ・インストラク ターによる「にほ んご交流サロ ン」開設の件	・大変役に立ったと好評であったので、 遠距離ではあるが、ボランティアの質的 向上と裾野拡大のために継続していくこ とを確認 ・THANK'sとしての協力規定を考える必 要がある。
4	平成 24 年 11 月 10 日	3 時間	アビエスフ イルマ	瀬古悦代、 野村登美子 砂山順子、 山本雅宣、 高畑笙子、 柿原美由紀 浅田まり、 慶野法子	・達人講座の進 捗状況について ・テキスト副教 材作成進捗状 況報告 ・サロンの年末 お楽しみ会につ いて ・来年度の文化 庁への申請に ついて文化庁 委託事業申請 内容の検討	・実践の少ない参加者についてのレク チャー前の実習の報告と3回の講座内容 の確認 ・L1～L6 完成、L7～L12 最終チェック 最終目標来年1月末までに一通り作 成 ・日本語交流サロンの恒例行事を例年 通り行う ・サロンの運営と指導者養成は継続して 行う。 テキストの作成については、学習者か ら表記の学習希望が出ているので漢字 教材の作成を考えたい。
5	平成 25 年 2 月 9 日	3 時間	アビエスフ イルマ	瀬古悦代、 野村登美子 高畑笙子、 柿原美由紀 浅田まり、 慶野法子	・新事務所移転 に伴う来年度の サロンの運営に ついて ・現会場での最 終回のサロン開 催について ・文化庁への報 告書作成スケ ジュールについて	・来年度からは、元町・御影サロンを新 事務所で行う。但し、一度に参加できる 人数に限度があるので、サロンの開催 日を増やす必要がある。 ・異文化交流お楽しみ会といった内容に する ・報告書作成分担と日程について詳細 を決定

【運営委員会写真】



5. 日本語教室の設置・運営

- (1) 講座名称 外国人は日本語を学習し、日本人ボランティアは教え方を学ぶ日本語教室
(にほんご交流サロン)
- (2) 目的・目標 (外国人)初級会話・中級会話の上達、

(日本人)初級・中級の教え方の上達、

(外国人・日本人・プロ講師全員共通)異文化交流

(3) 対象者 地域在住の外国人、日本語ボランティア及びボランティアをめざす日本人

(4) 開催時間数(回数) 75 時間 (全 25 回)

(5) 使用した教材・リソース

●『教えやすい・学びやすい初級会話テキスト』英語版・中国語版・韓国語版・

スペイン語版・ポルトガル語版・ベトナム語版・インドネシア語版・

フランス語版・タイ語版

NPO法人実用日本語教育推進協会発行

●『同 指導書A1, A2, B1, B2』NPO法人実用日本語教育推進協会発行

●『絵を見て話そう 中級会話』 学習者用&指導者用

NPO法人実用日本語教育推進協会発行

(6) 受講者の総数 外国人 38 人、日本人 68 人

(出身・国籍別内訳)

日本人：68 人

外国人：中国 13 人、インドネシア 3 人、台湾 3 人、オーストラリア 3 人、イギリス 2 人、アメリカ 2 人、ベトナム 2 人

以下各 1 人：ネパール、インド、スイス、イタリア、ペルー、ニュージーランド、タイ、トルコ、モロッコ、ポーランド

(7) 受講者の募集方法

神戸市周辺の国際交流センター、大学等へのポスター貼付、当協会ホームページ上での公開募集

チラシの配布、受講外国人の口コミ、地域の日本語関係団体への周知

添付資料：⑥-2 日本語教室募集チラシ

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成 24 年 6 月 11 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	23	中国 8、イギリス 2、台湾 1、インドネシア 1、日本 11	13 課の学習	・グループ分け、て形の作り方を学び、ます形→て形への変換を練習する
2	平成 24 年 6 月 18 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	21	中国 7、イギリス 2、アメリカ 1、インドネシア 1、日本 10	17 課の新出語及び新出文型の学習	・デパートへ行って、買い物しました。 ・電話をかけてから友達の家へ行きました。
3	平成 24 年 6 月 25 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	15	中国 6、イギリス 2、インドネシア 1、日本 6	11 課の新出語及び新出文型の学習	・新幹線は電車より早いです。 ・北海道と九州とどちらが寒いですか。北海道のほうが寒いです。 ・スポーツでサッカーが一番好きです。

	0					
4	平成24年7月2日 10:00～13:00	3時間	22	中国7、イギリス2、アメリカ1、インドネシア1、ネパール1、インド1、日本9	31課の新出語及び新出文型の学習	・ コーヒーを飲みながら、新聞を読みます。 ・ メモしながら、聞いてください。
5	平成24年7月9日 10:00～13:00	3時間	21	中国6、イギリス2、アメリカ1、インドネシア1、ネパール1、ペルー1、台湾1、日本8	32課の新出語及び新出文型の学習	・ この本を全部読んでしまいました。 ・ 約束の時間に遅れてしまいました。
6	平成24年7月23日 10:00～13:00	3時間	13	中国3、イギリス1、アメリカ1、ネパール1、台湾1、日本6	33課の新出語及び新出文型の学習	・ この本を全部読んでしまいました。 ・ 約束の時間に遅れてしまいました。
7	平成24年9月3日 10:00～13:00	3時間	18	中国6、イギリス1、アメリカ1、インドネシア1、ネパール1、台湾1、日本7	12課の新出語及び新出文型の学習	・ 大きいテレビが欲しいです。 ・ どんなカメラが欲しいですか。日本のカメラが欲しいです。 ・ 新しいパソコンを(が)買いたいです。
8	平成24年9月10日 10:00～13:00	3時間	20	中国6、イギリス2、アメリカ1、インドネシア1、ネパール1、ペルー1、オーストラリア1、日本7	13・14課の新出語及び新出文型の学習	・ グループ分け、て形 ・ パスポートを見せてください。
9	平成24年9月17日 10:00～13:00	3時間	15	中国4、アメリカ1、ネパール1、ペルー1、オランダ1、日本7	3課の新出語及び新出文型の学習	・ 今8時です。 ・ お父さんは10時から6時まで働きます。 ・ お母さんは12時に寝ます。 ・ 昨日勉強しましたか。 ・ いいえ、しませんでした。
10	平成24年10月1日 10:00～13:00	3時間	21	中国5、イギリス1、インドネシア1、ネパール1、オーストラリア1、日本12	4課	・ 先月日本へ来ました。 ・ 8月飛行機で北海道へ行きます。 ・ 昨日何時に家へ帰りましたか。7時に帰りました。 ・ 誕生日はいつですか。
11	平成24年10月15日 10:00～13:00	3時間	26	中国6、イギリス2、アメリカ1、インドネシア1、ペルー1、オーストラリア1、スイス1、日本13	8課の新出語及び新出文型の学習	・ あなたはどんなスポーツが好きですか。ゴルフが好きです。 ・ 友達は歌が上手です。 ・ 父は日本語が全然わかりません。
12	平成24年10月22日 10:00～13:00	3時間	19	中国6、イギリス2、アメリカ1、インドネシア1、日本9	15課の新出語及び新出文型の学習	・ トムさんは今パソコンで日本語を勉強しています。 ・ お父さんは今何をしていますか。 テレビを見えています。
13	平成24年11月5日 10:00～13:00	3時間	21	中国7、イギリス2、アメリカ1、インドネシア1、オーストラリア1、日本9	16課の新出語及び新出文型の学習	・ ここに荷物を置いてもいいです。 ・ ここで写真を撮ってはいけません。 ・ 銀行で働いています。 ・ 神戸に住んでいます。
14	平成24年11月12日 10:00～13:00	3時間	23	中国7、イギリス1、アメリカ1、インドネシア2、オーストラリア1、日本11	18課の新出語及び新出文型の学習	・ このカメラは小さくて軽いです。 ・ よしこさんは髪が短くて、背が高いです。

15	平成 24 年 11 月 26 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	19	中国 5、イギリス 2、インドネシア 1、オーストラリア 1、日本 10	19 課の新出語及び新出文型の学習	・そこに車を止めないでください。 ・これは大切ですから、忘れないでください。
16	平成 24 年 12 月 3 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	22	中国 3、イギリス 1、アメリカ 1、インドネシア 2、ニュージーランド 1、オーストラリア 3、日本 11	21 課の新出語及び新出文型の学習	・鳥は空を飛ぶことができます。 ・インターネットで予約することができますか。
17	平成 24 年 12 月 17 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	22	中国 5、イギリス 1、アメリカ 1、インドネシア 3、ニュージーランド 1、オーストラリア 1、日本 10	年末のお楽しみ会(レッスンなし)	・全員で歌・ゲーム・ティーパーティ
18	平成 25 年 1 月 7 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	16	中国 6、アメリカ 1、インドネシア 1、日本 8	22 課の新出語及び新出文型の学習	・新幹線に乗ったことがあります。 ・すしを食べたことがありますか。 はい、1 回あります。
19	平成 25 年 1 月 21 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	19	中国 5、イギリス 1、インドネシア 1、タイ 1、日本 11	24 課の新出語及び新出文型の学習	・毎日練習したほうがいいです。 ・熱がありますから、お風呂に入らないほうがいいです。
20	平成 25 年 1 月 28 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	16	中国 4、イギリス 1、インドネシア 1、タイ 1、トルコ 1、日本 8	25 課の新出語及び新出文型の学習	・普通形
21	平成 25 年 2 月 4 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	18	中国 4、イギリス 1、アメリカ 1、インドネシア 1、イタリア 1、日本 10	26 課の新出語及び新出文型の学習	・東京は地下鉄が便利だと思います。 ・ニュースでアナウンサーは来月アメリカの大統領が日本へ来ると言いました。
22	平成 25 年 2 月 18 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	20	中国 6、アメリカ 1、イタリア 1、モロッコ 1、ベトナム 2、日本 9	6 課の新出語及び新出文型の学習	・わたしは友達にプレゼントをあげます。 ・誰に花をもらいましたか。 ジョンさんにももらいました。 ・はしでそばを食べます。
23	平成 25 年 2 月 25 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	24	中国 6、アメリカ 1、モロッコ 1、ベトナム 2、イギリス 1	7 課の新出語及び新出文型の学習	・東京はにぎやかです。 ・このかばんは新しいです。 ・ジョンさんは元気な人です。
24	平成 25 年 3 月 4 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	21	中国 4、イギリス 1、モロッコ 1、ベトナム 1、ポーランド 1、	9 課の新出語及び新出文型の学習	・町の動物園にパンダがいます。 ・バス停はどこにありますか。本屋の前にあります。
25	平成 25 年 3 月 11 日 10:00 ~ 13:00	3 時間	23	中国 5、イギリス 1、アメリカ 1、ベトナム 1、	10 課の新出語及び新出文型の学習	・公園に子どもが何人いますか。5 人います。 ・家から学校まで 30 分かかります。

(9) 特徴的な授業風景(2~3 回分)

7 月 9 日 (月)

サロンのグループレッスンで扱う課は、できるだけ参加学習者のレベルに合わせて決めているのだが、この日はこのところ中級レベルの学習者がよく参加しているという事情もあったので、少し高めのレベルで進めることにして、前週の31課に引き続いて32課を扱った。

グループレッスンの初めに行う復習の時間には、前週の31課の「～ながら」と「～し、～し」で進めた。比較的初級のレベルの学習者でも、「ます形」を使う「～ながら」の定着はまずまずであった。しかし、普通形がよくわかっていない学習者にとって、「～し、～し」はやはりかなり難しかったようなので、主に「～ながら」を重点的に復習した。

前週も出ていた「テレビを見ながらごはんを食べます。」の文では、「私はテレビを見ながらごはんを食べません。」という学習者もいたりして、「どうして？どうして？」とテレビを見ながらごはんを食べる派の学習者から質問が出て、なかなかおもしろい時間になった。携帯電話をしながら運転している人を見たという学習者もいて、「危ない、危ないです。」とみんなで共感もした。また、「～ながら～ます」の文の前と後ろのどちらが主な行動かという点についてもレベルの高めの学習者から質問が出ていた。

この日の32課の文型は次のものである。

(1) このほんを ぜんぶ よんでしまいました。

(2) やくそくの じかに おくれてしまいました。

テキストの文法説明で、二つの文の意味の違いはだいたいわかってもらえたが、「て形」の作り方や「今、日本語を勉強しています。」や「日本に住んでいます。」の意味を知っている程度のレベルの学習者たちにとってはやはり少々難しく、実際に使えるようになるのはもっと先になるだろうと思われた。だが、中級レベルの学習者たちは、この日のレッスンはとてもいい勉強だったと言っていた。

サロンでは、グループレッスンのあと、ティータイムを挟んで、マンツーマンレッスンをするのだが、中級レベルの学習者向けには、当協会オリジナルの『絵を見て話そう 中級会話テキスト』を使った中級レッスンを行っている。

この日は、9課の『結婚相手』の2回目のレッスンで、中級レベルの学習者4人を相手にしてグループレッスンを行った。前週の宿題は、「家族はどんな人が説明してください」というものだったので、それぞれが、家族の性格や好みを話していた。

このテキストには、いろいろな情報満載のきれいな絵がついているので、絵を見ながら、新しいことばも簡単に理解して、少しずつでも楽しくことばを覚えていくこともできるようだ。この日の学習者の質問は以下のようなものだった。

- ・「経済力がある」と「金持ち」との違い
- ・「前向き」「楽天的」「積極的」の違い
- ・「誠実な」と「慎重な」の違い

・「水っぽい」と「水くさい」の違い

また、「～っぽい」のつくことば（例：忘れっぽい、怒りっぽい、理屈っぽい・・・など）と「～好き」のつくことば（例：料理好き、子供好き、きれい好き、話好き・・・など）の例を挙げて説明した。

指導者に習うだけでなく、4人の学習者がお互いに質問したり、自分の知っていることばを説明したりして学習を進めていた。

12月17日（月）

この日は恒例となった御影サロンの年末お楽しみ会であった。学習者も日本人ボランティアもとても楽しみにしている行事である。総勢33名の参加でたいそうにぎやかなパーティーとなった。今年は、思い切って日本語のレッスンをお休みにし、ゲームや歌やなど日本語をフルに使って、楽しく充実した時間を過ごしてもらおうと、旗揚げゲーム、伝言ゲーム、「私は何?」、ジャンケンなど、いろいろなレベルの学習者に合わせたゲームを準備し、日ごろのレッスンにもまして日本語を使ってもらえるように工夫した。

食事の合間には、参加外国人にサロンの感想や、自分の日本語の伸びなどについて簡単なスピーチをしてもらったのだが、サロンでの学習をしっかりとエンジョイし、またサロンでの付き合いをととても喜んでくれている様子がうかがえて、日本人ボランティアにとっても嬉しい励みとなった。

パーティーの終わりには、「明日があるさ」の歌や、「マカレナ」のダンスで大いに盛り上がり、2012年最後のサロンのお開きとなった。

3月11日（月）

御影の地での最後のサロンということでサロン終了後の荷物の運搬や後片づけや掃除などもあったので、この日は外国人8名、日本人15名の総勢23名の出席だった。

この日のグループレッスンは前週の9課に続いて10課を扱った。サロンでのグループレッスンでは常に初めの10～15分は前回のグループレッスンの復習に当てることになっているが、9課で扱った存在を表す「います」「あります」の定着は非常によく、講師からの質問、例えば、「〇〇さんのかばんは どこに ありますか。」「かばんのなかに けいたいが ありますか。」「ごしゅじんは、いま どこにいますか。」などにスムーズに答えることができていた。また、学習者同士での同じような質問や答えも非常に楽しそうに進められ、にぎやかに盛り上がっていた。

そのあと、この日の10課の学習に入った。この課の文型は次の二つである。

（1）こうえんに こどもが なんにん いますか。5にん います。

（2）うちから がっこうまで 30ふん かかります。

この課の目標は、ひとつ、ふたつ、みつつ～とお、～人、～枚、～台、～冊、～回などいろいろな助数詞の使い方を知って、その表現をうまく使って話せるようになってもらう

ことだが、全体に音の変化のないものは、簡単に言えるようになっていた。しかし、この日の学習者に共通して難しかったのは、～本、～杯など、数によって言い方が変わるものだった。学習者の方から、何度も、もっと練習したいと声が出て、1本、3本、6本、8本、1杯、3杯、6杯、8杯など繰り返し練習していた。また、10本をじゅっぽんと言うのか、じっぽんと言うのか10分をじゅっぷんと言うのか、じっぷんというのかという質問も出て、グループレッスンを見学していた日本人たちも参加して、あれやこれやと意見が出ておもしろい時間となった。

サロンのグループレッスは、すべての学習者のレベルに合っているわけではないが、その課の内容がまだよくわかっていない学習者と、既に十分わかっている学習者の双方にとって、それなりに意味のある時間なのではないかと思う。未習の学習者は、テキストの対訳によって意味もわかるし、繰り返し聞くことによって発音にも慣れることができる。また、既習の学習者にとっても、この日の助数詞の内容のようにまだまだ完璧にマスターできていないことも学べるし、よくわかっているところを後輩に教えることで、自身の確認にもつながるからである。

サロンでは、グループレッスンでも、マンツーマンレッスンでもたくさん話そうとすることができるのでとても楽しいと、どの学習者も言っている。

グループレッスン



ティータイム



マンツーマンレッスン



中級レッスン



日本人ミーティング

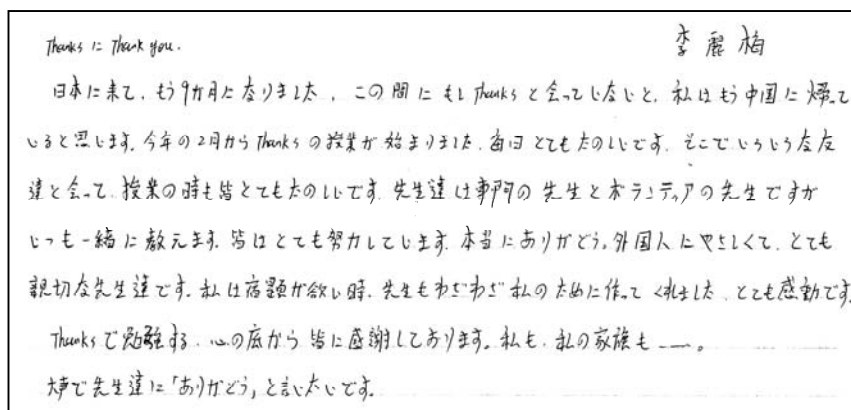


(10) 目標の達成状況・成果

① 当初の学習目標の達成状況

当教室に通ってきている外国人はそれぞれに日本語会話力が上達してきている。随時新たな参加者も受け入れており、様々なレベルの外国人がいるため、人によっては、グルーブレッスンで比較的やさしい課を学習することもあるが、皆熱心に参加し、よい復習の機会となっている。また、中級レベルの外国人には引き続き、作成したテキストにより中級会話レッスンを行っているが、生活の様々な場面で必要な語彙、表現に加えて習慣を知ることにも役立っている。全体的に外国人参加者の定着率が高く、教室に対する信頼感や教室の楽しさを学習者が実感していることが分かる。

学習者の書いた作文（原文のまま）（李：中国）



② 学習者の習得状況

学習者の背景や教室に来るまでの学習歴、国籍・母語などが様々なため、個々の学習の進捗や習得状況は異なるが、それぞれに着実に会話能力が上がっている。またティータイムなど、毎週しっかりと日本人と話す機会できたことで日本語に慣れ、コミュニケーション能力が上がっている。さらに、ティータイムでは国籍の違う外国人同士も共通語である日本語を使って話す場面もあり、自国で固まりがちな外国人が国籍を超えて交流している場面が多くみられ、恰好の国際交流の場ともなっている。

事例① ケナンさん（トルコ）

奥さんが日本人で、その家族として来日し、2010年10月からサロンに参加している。来日前にも少し日本語を勉強しており、日本で仕事もしているが、英語を使うため、当初は日本語の使用機会は少なかった。しかし、サロンのレッスンやティータイムなどで日本語で話す機会が増え、それにつれて日常生活での使用機会も増えていき、会話力が非常に向上した。現在は自ら事業も行うなど仕事でも日本語を使う場面が多くなった。THANK' s の初級テキストはほぼ終了し、また、仕事が忙しくなってしばらく来られなかったが、時間がある時には顔を出してくれる。外国人を温かく受け入れるサロンの雰囲気が好きだと言っている。

事例② 呉堅華さん（中国）

日本人と結婚し、息子さんが2人いる。家での会話は日本語で、15年在住しているので、語彙は多いが、聞き覚えの独学のため文法は不正確でブロークンだった。息子さんに「お母さんの日本語は変だ」と言われたことがショックで、初級から学び直す決心をして兵庫県在住外国人対象講座に通い始め、そこからの紹介で2012年9月からサロンに参加した。当初は自信をなくして悩んでいたが、サロンのレッスンで積極的に質問をして日常生活での疑問を解消する一方、サロンで知り合った外国人や日本人とティータイムに話すことで明るさを取り戻している。徐々に文法の知識が整理されてきているようで、話す時にも正確さを意識するようになっていく。

事例③ レギアさん（インドネシア）

日本在住のドイツ人の家に住み込みで、ヘルパーとして入院中の奥さんの世話をしているが、日本語も英語もあまり話せず、家と病院の往復で外に出る機会もあまりなかった。雇用主からの依頼でサロンに2012年1月から通い始めた。当初は全く日本語が話せず、不安そうな様子だったが、ゆっくりではあるものの真面目な性格で着実に学習を進め、自分からの発話が増えてきている。表情もすっかり明るくなり、冗談も言えるまでになっている。また、自信をつけたことにより、電車での移動にも不安がなくなってきたようで、休みの日に大阪へ行ったことなども話してくれた。日本語力とともに、生活力も上がったことを感じる事例である。

事例④ 李麗梅さん（中国）

2011年11月に結婚のため来日し、2012年2月からサロンに参加している。ご主人は日本人で、日本語と中国語でコミュニケーションをとっているが、日常生活では言葉の壁を感じ、友人がいないことでも悩み、引きこもりがちだった。サロンに参加するまでは、帰国も考えていたそうだが、サロンに通い始めてからは本来の積極的な性格を発揮するようになり、毎日の生活が楽しくなったとのことである（掲載作文参照）。これについては、ご主人からも感謝の言葉をいただいている。最近はアルバイトも始め、更に自信をつけている。そのアルバイトもサロンの日は休みを取って毎週熱心に通っている。また、インターネットで知り合った同じ立場の友人を来日直後からサロンに連れてくるなど、自らが支援者の役割も担っている。

（11） 改善点について

このサロンの取り組みについての問題は、

- ①会場の問題：借りている会場のため、受け入れ人数に制限があること、また会場の都合で開催日が月曜日と限られているため、他の曜日開催についても要望が出ていた。

→この件に関しては、平成25年度、4月より事務所が移転し、自分たちの会場を常時使えることになったので、開催日を月曜日・水曜日・日曜日と週3回に増やすことが出来るようになった。

た。これまでより広いサロンスペースも含めた事務所を借りることになったため、家賃等の問題は出てくるが、常設のサロンとして開催できることになるため、会場の問題は解決するであろう。

- ②人数の問題:これまでは月曜日のみの開催のため、マンツーマンレッスンの人数が多すぎると部屋がうるさくてマンツーマンレッスンがしにくい、という問題があった。

→ これも、開催日を3回に分けることで、1回の人数を調整し、落ち着いてレッスンができるようになる。

- ③ レッスンで学んだ会話の定着について

これまで、サロンでのレッスンは会話の実践練習が中心であったため、その場では新しい文型などが言えるようになって、次のレッスンまでに忘れてしまう、という声があった。

→ 24年度文化庁委託事業によって、練習帳を48課分作成(この報告書に添付)したので、練習したことを自宅に持ち帰って復習ができるようになった。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 「日本語の達人ボランティア」養成講座
- (2) 目的・目標 日本語教育の専門家ではないが、日本語で交流するだけでなく、「日本語がきちんと教えられ、日本語教室の指導的役割を果たすことができる」ような達人ボランティアを育成すること
- (3) 対象者 特に限定しないが、地域のボランティア教室のリーダーを目指している人で、ボランティア養成講座を受講するなどして、日本語教育の知識のある人
- (4) 開催時間数 全体(回数) 58 時間 (全 23 回)
個人(回数) 25 時間 (全 10 回)
- (5) 使用した教材・リソース
添付資料:⑨達人講座レジュメ・認定試験評価 ⑪日本語の達人講座 実習報告抜粋
- (6) 受講者の総数 11 人
(出身・国籍別内訳 日本人 11人)
添付資料:⑥-1 達人講座募集チラシチラシ
⑦日本語の達人養成講座 名簿と出席簿
- (7) 受講者の募集方法 ポスター・チラシ・当協会のホームページ
- (8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年9月10日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと事後指導
2	平成24年9月17日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと事後指導

3	平成 24 年 10 月 1 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
4	平成 24 年 10 月 15 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
5	平成 24 年 10 月 22 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
6	平成 24 年 11 月 5 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
7	平成 24 年 11 月 12 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
講座 A	平成 24 年 11 月 24 日 10:00~12:00	2時間	海外移住と文化 の交流センター2 F	11人	日本(11名)	「会話テキスト・指導 書を使った効果的な 指導法」を学ぶ	実際のテキストと指導 書に沿って、挨拶・前 課の復習・新出語・文 型・会話の教え方を具 体的に学ぶ
8	平成 24 年 11 月 26 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
講座 B	平成 24 年 12 月 1 日 10:00~12:00	2時間	海外移住と文化 の交流センター2 F	10人	日本(10名)	「日本語の教え方」 を 学ぶ	実習指導(外国人学習 者参加)
9	平成 24 年 12 月 3 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
講座 C	平成 24 年 12 月 15 日 10:00~12:00	2時間	海外移住と文化 の交流センター2 F	10人	日本(10名)	「日本語の教え方」 を 学ぶ学ぶ	実習指導(外国人学習 者参加)
10	平成 25 年 1 月 7 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
11	平成 25 年 1 月 21 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
12	平成 25 年 1 月 28 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
13	平成 25 年 2 月 4 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
14	平成 25 年 2 月 18 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
15	平成 25 年 2 月 25 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	4人	日本(4名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
16	平成 25 年 3 月 4 日 10:00~13:00	3時間	アビエスフィルマ	2人	日本(2名)	サロン実習	マンツーマンレッスンと 事後指導
認定 試験 A	平成 25 年 1 月 21 日 10:00~13:00	1時間	海外移住と文化 の交流センター2 F	2人	日本(2名)	インストラクター認 定試験	実際に講師が1時間 のレッスンにつき、教 え方をチェックする
認定 試験 B	平成 25 年 2 月 18 日 10:00~13:00	1時間	海外移住と文化 の交流センター2 F	2人	日本(2名)	インストラクター認 定試験	実際に講師が1時間 のレッスンにつき、教 え方をチェックする
認定 試験 C	平成 25 年 3 月 4 日 10:00~13:00	1時間	海外移住と文化 の交流センター2 F	2人	日本(2名)	インストラクター認 定試験	実際に講師が1時間 のレッスンにつき、教 え方をチェックする

認定試験 D	平成 25 年 3 月 11 日 10:00~13:00	1 時間	海外移住と文化 の交流センター 2 F	2 人	日本 (2 名)	インストラクター認 定試験	実際に講師が 1 時間 のレッスンにつき、教 え方をチェックする
-----------	---------------------------------	------	---------------------------	-----	----------	------------------	--

(9) 特徴的な授業風景 (2~3 回分)

① 達人養成講座

「意味を伝え、文法を伝える部分」はテキストに媒介語で書きこんであるので、受講生は指導書にそって、徹底的に日本語のみで口頭練習をさせるやり方を学ぶ。

以下、講師のレポートである。

< 1 回目 >

★THANK' Sの教え方の基本について確認 → 文型について皆で考える → テキスト全体の流れを俯瞰(レジュメに沿って、なるべく簡潔に余分な説明を加えずに行った。活用形など文法用語が出てくると、他の受講生はよかったが、A さんは「はっきり覚えていない」とのこと。)テキストの内容の中に敬語や命令形がないということもわかっていた。サブシートの活用について説明。講座 3 回目にはサブシートを利用した実習を行うことを告知。

★指導書の使い方 → 16 課を参考に、指導の流れについて詳細に、また注意すべきポイントについて説明する。余分な説明は不要で、指導書通り指示語を確実に守ること、学習者がテキストと耳の情報で学んでいること、学習目的をはっきりさせることを確認。

★文型項目確認シートを作成 → 前回学んだ文型への問いかけ文が、なかなか出てこなかった。B さんや C さんに例文を言ってもらった。この部分について説明はしたものの、不十分だったかもしれない。宿題として 11 課を提示したが、再度詳しく確認しておくよう指示。

★ペアワーク → あいさつや復習、ことばに時間がかかり、文型の部分のペアワークが不十分。ペアごとに立って学習者役と先生役をしてもらったが、外国人役の文法や発音の間違いについて教師役がそれぞれ工夫していた。ただ、小さなミスなどを見逃し、簡単にスルーしてしまう場面も時々見かけられたので、必ず繰り返して定着を図るようにアドバイスした。

★各ペアの発表終了時間がすでに 12 時 10 分だったので、評価基準については、次回実際に外国人と実習後にこの基準を使用してもらうように言った。

★12 時 15 分から 1 時半ごろまで事務所で話が続き、受講者の経験や日本語を教える時の難しさなどについて話し合った。また、指導書の「会話」「自由会話」などについても質問が出たので、「評価基準」を参考にしながらサンクスメソッドについて重要なポイントは何かを話し合った。いろいろな経験や意見を聞くことができ、有意義な時間だった。

< 第 2 回目 >

★11課の文型項目確認シートを全員で確認。前回の復習の「文型」も、骨子のみを書くことで統一した。どう書けばいいか迷っている受講者もいたので、指導書の課の初めの部分や、文法説明が参考になることを伝えた。

★実習 あいさつと復習:モデル→Aさん、Bさん実習。Aさんがスムーズにあいさつから復習へ入ることが出来たが、次は季節の話題を入れてと課題を出すと、突然のことでBさんは苦勞していた。そこで、季節ごとにどんな話題がいいかストックしておくといいとアドバイスした。

★実習 ことば:モデル→Cさん、Dさん実習。今回は、絵カードの扱いに注意が必要だと、受講者から感想が出た。また、絵カードについては、質問があったので、ない時の方法も再度説明した。

★実習 文型(1)モデル→Cさん実習。とても上手く出来た。学習者の誤りの訂正のしかたなど、受講者にも参考になった。

★実習 文型(2)Eさん、Fさん、Gさん実習。Eさん、Fさんはとても良かった。Gさんは自由練習で、「～と～はどちらが～？」と質問し、途中で間違いに気付いた。また、学習者の発話のミスを聞き逃すところもあった。

★実習 文型(3)Dさん、Eさん、Hさん実習。Hさんが指示を間違えていたので指摘した。*実習で時間がなくなり、評価基準を全体で再度確認することはできなかった。今回の実習の自己評価を書いてくることを宿題とした。また、次回の実習46課の文型項目確認シートの記入も宿題にしている。

<第3回目>

★46課の受身のところだったが、学習者の呉さんにはとてもいい勉強になったようだ。受講者も受身ということで、しっかり準備してきていた。

★宿題の項目確認シートはチェックに時間をかけたので、文型の把握や、留意点を全体で押さえることができたと思う。

★「ことば」のところは軽く流そうと思ったのだが、呉さんが「先生に叱られます」の絵カードを見て、「先生に怒られます」と言ったので「叱る」と「怒る」の違いなども確認できてよかった。

★文化庁標準的カリキュラム案を紹介し、学習者の状況やレベルにあった会話を応用として取り入れることができると紹介。さらにどのような使い方ができるかについて話した。

★時間がたっぷりあると思われたが、皆で話し合っているうちに時間が経ち、実習時間が予定より少なくなってしまった。学習者の呉さんは、質問もよくしたが、予定以上によく話したので、時間を取られた。耳で覚えた日本語で、いろいろ言おうとするのだが、全員が理解するのが難しかった。全く余計なことならストップすることもできたのだが、レッスン内容に関することなので、一概にやめさせることもできずコントロールが難しかった。

②実習

実習の日は日本語教室のグループレッスンで講師による授業を毎回見学し、教え方のコツを学ぶ。その後、実際に外国人を相手にマンツーマンで 1 時間実習する。実習中も講師がそばについてアドバイスをを行い、その後には講師が事後指導を 1 人 1 人に行う。

③認定試験

実習終了後には、教え方の評価基準に照らして、当 NPO 法人が認定試験を行い、合格した人を「日本語の達人ボランティア」として認定した。

今後各地のボランティア教室、THANK's「日本語サロン」などでの活躍に期待したい。

講座 A



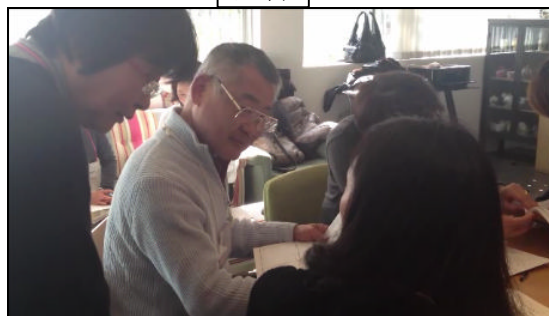
講座 C



実習



実習



(10) 目標の達成状況・成果

①達人養成講座

出席者は、モチベーションも高く、より良いボランティアを目指して受講している人々が多い。このように意識が高いため、『指導書』を駆使しながら、『初級会話テキスト』で日本語を教える方法を意欲的に学んでいる。

②実習

座学で得た「日本語の教え方」の知識をもって、実際の外国人学習者に 1 時間みっちり向き合うことは、受講者にとっては、想像以上の難しさとともに楽しさも経験出来たと

思われる。また、実習に先立って、講師のグループレッスンを毎回見学しており、この見学を通して、「にほんごの教え方」のコツを発見できる。こうした一連の経験は、次のレッスンへの確実な踏み台となっているはずである。

一方、実習を担当する講師は、当日の受講生の実習をふり返り、順を追ってきめ細かく事後指導をするので、1 回ごとの実習のフィードバックを反省し、次の実習に活かすことができ、6 回の実習を経て、見違えるような教え方の上達が見られた。

以下、講師のアドバイスをいくつか抜粋しておく。

★A さんの実習に対するアドバイス(コメント)

学習者:ドウさん(中国人) L35の会話～

会話に入る前にL35の復習「～たあとで、～のあとで、～ないで」をしてから会話とL36に進んだが、復習はもう少し短めでもよかったと思う。L34の意志形も混ぜながらの練習ができていた。ことばは絵カードも使って、助詞を含めて身近な例で導入することをアドバイスした。ドウさんからの質問で「なくなります」、「死にます」、「枯れます」の違いを加えた。文型練習では助詞が省かれた時には考えさせる時間を取り、訂正文をきちんとリピードさせて丁寧な指導ができていた。質問文作りで指示が分かりにくい箇所があったので、「～か」の例文をはっきり伝えることを後でコメントした。全体に自然で優しい調子で、しかしキューなどは明瞭に出されるので慣れている感じがしたが、ボランティアの経験があるとのことだった。今後、インストラクターへの興味を尋ねたところ、もっとテキストの内容を勉強したいので、今はまだ考えていないとのこと。指導書も注意深く読んでいるのがよく見てとれた。L36の文型(1)(2)まで終えた。

★B さんの実習に対するアドバイス:

学習者:ドウさん

内容:L34 前回文型(1)の⑤まで終わっていたので、初めに復習から入った:意志形の復習から入り、前回終わった部分をすべて指導書の通りに出来た。ドウさんは意志形の活用はほとんど間違いなく覚えていたので、指導書通りにもう一度繰り返してしなくても、取捨選択して覚えていることが確認できればいいとコメントした。

その後、文型(1)の残り、文型(2)、文型(3)、会話まで、指導書の通りに進めていった。

<良かった点>

- ・指導書の使い方(指示の出し方、キューを出して練習させる等)は問題なくできていた。
- ・間違ったキューの練習を、その全てのキューが終わってから最後にもう一度やらせる点などは良かった。

<改善点>

- ・指導書を見ている時間が長い→もっと学習者の顔を見て練習を進めて行った方がいい。
- ・自由練習、応用練習はあまりオプションがなく、QAの広がり、盛り上がりがなかった→も

っと準備をしたほうがいい。

・文型・項目確認シートに書き込みが非常に少なかった→「留意点」に、気を付ける点と、その対応策などを書いたほうがいい。

★Cさんの実習に対するアドバイス

学習者：ウェイティンさん(中国人女性)

内容：L16 文型(3)～L17 文型(1)の途中まで

- ・大きな流れが把握できており、脱線せずに概ね順調に進められたのは、随分慣れてきた証拠だと思う。
- ・指導書通りの指示語を使って、余計な言葉を使わずに進めていけたのも良かった点である。
- ・「～ています」の文型であるにもかかわらず、ある箇所の練習だけ連続して「～ます」で質問したので、ウェイティンさんは不思議そうな表情のまま、言われた通りにずっと「～ます」で答えていた。あとで、指摘したところ、本人はそれに全く気付いていなかったとか……。現在、どのような練習に入っているかを正確に把握しないままに進めた結果だったと思う。この点は残念だった。
- ・また、褒め方がもう一つの確でなかったため、ウェイティンさんは時折不安そうな表情になってしまった。この点については、前回もそうだったと反省していた。
- ・今回は、L17の文型(1)で、過去のことを表現する場合、文末の動詞だけを過去形にすることについて、何ら説明しなくても全く間違えずに文作成が出来てしまっていたが、(今回はウェイティンさんの勘の良さが功を奏したかもしれず)質問があった場合の対処法などを後のフィードバックの折に確認した。

③認定試験

「普段何気なく使っている日本語(母語)を、日本語を母語としない人々に教える方法」を全く白紙の状態から学んでいった受講者が、講座と実習を通して、着実に身に付けそれを実践するまでに成長していく現場が多く見られた。今後ますます成長していく可能性を持っているので、講師はそれを伸ばしていけるよう一層の努力を重ねていきたい。

(11) 改善点について

実習回数を6回としたが、サロンの開催が平成24年度は1カ月3回しかなかったため、スケジュール的にハードであった。しかし、平成25年度は事務所の移転により、週3回のサロン開催ができるようになるため、タイトなスケジュールは改善させることが予測される。

「日本語の達人ボランティア」が着実に誕生し、プロとボランティアの中間的な存在として、THANK's の「テキスト」と「指導書」を駆使して、日本語指導が出来るよう育ってきている。そして、地域のボランティア教室や当協会が主催する「日本語教室」での活躍もめざましく、後進の受講者に対してアドバイスが出来うる存在に成長しつつある。しかし、達人講座修了生が、講師の指導も

仰ぎつつ、自主的に開いている勉強会への参加者が限られているため、今後は、「達人ボランティア」のモチベーションをより高めるためにも、こうした研鑽の場の充実を図ることが課題だと思われる。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 THANK's「初級会話テキスト用練習帳」
- (2) 対象 初級会話を学習する一般外国人
- (3) 目的・目標

『初級会話テキスト』を使用して勉強している学習者が自宅学習することを目的に作成した。自宅学習が困難な学習者は、『初級会話テキスト』の補助教材として、学習することができる。

課の最後に自分自身の事を記入するスペースを設けており、その課で学習した言葉や表現で、自分が言いたい事を記入していけば、学習者の日本語学習の記録が日記のような形で残り、学習者個人個人の初級教材となる。

また、初級を終了した学習者(中級学習者)も復習教材として必要な課を使用することができる。

- (4) 構成

1 課につき、A-4 2 ページで 48 課分を作成した。合計 96 ページ。

構成例) ● 21 課(番号は課によって異なる)

ことは①言ってください。②分かりますか。その課での新出語や重要な語の提示。

れんしゅう

①言ってください。その課の基本的な文型の提示。

②①辞書形で書いてください。②言ってください。変換練習

③①選んでください。②形を変えて書いてください。動詞の形を変える穴埋め問題。

④①言ってください。②覚えてください。覚える問題。まとまった文章を見ないで言えるよう、暗記する。

まとめその課の基本的な文型の文章の提示。

⑤答えてください。質問に対する答えを記入する問題。

＊教室で何ができますか。書いてください。覚えてください。

最後に学習した言葉や文型、表現を使って自分の事を記述し、暗記する。

- (5) 使い方

宿題として配布し、学習者は自宅で、30 分程度で記入する。また覚えるところは、次回の

授業で言えるように暗記する。

次の授業に持ってこさせ、学習者は言葉や文型を読み上げ、練習問題の語を記入した文章を読み、最後に自分の事を書いた文を発表できるようにする。

指導者は間違いのチェックなど30分程度で、フィードバックを行う。

(6) 具体的な活用例 ● 21 課(p41～p42)のフィードバック(約 30 分)例

ことば①言ってください②分かりますか。

ことばを1語ずつ言わせ、意味を確認する。(すべての言葉の意味を確認する必要はない)

れんしゅう

(1)、(2)の文章を言わせる。発音がどうか、スムーズに言えているかどうかを確認する。

②①辞書形で書いてください。②言ってください。

辞書形に変換したものを言わせ、変換がうまくできていない動詞はサブシートを見せたりして、確認する。すぐに正解を出さずに学習者自身に修正させるようにする。

③①選んでください。②形を変えて書いてください。

②と同様動詞の形がうまく変えられているかどうか確認する。

④①言ってください。②覚えてください。

暗記した文章を発表させる。文章が少し変わっていても、意味があっていればよい。ただし文法的な間違い(助詞が抜けているなど)は、文章を見て、正確に言えるように練習させる。

まとめその課の基本的な文型の文章の提示。

時間があれば読ませてもいいが、本来は確認だけでいい。

⑤答えてください。

「答えてください」の質問をし、答えさせる。書いたものと答えが違っていても間違いがなければかまわない。書いたものに文法的な間違いがあれば、下線を引くなど学習者に間違いを気づかせ、自分で訂正できるようにもっていく。

＊教室で何ができますか。書いてください。覚えてください。

書いてきたものを発表させる。文章と発表が違っていてもかまわない。あまりにも短い場合は補足的な質問をする。文法的な間違いは学習者自身に気付かせるようにする。

※時間に余裕がある場合には、文化庁制作の標準的カリキュラム案教材例集p207の活動3の様々な施設(図書館、スポーツセンターなど)でできることを口頭で言わせる。

このような練習を通して学習者が書きたいことが増えれば、次回までに書いてくるように言う。

(7) 成果物の添付

添付資料:⑧学習教材:副教材 1 課～48 課・教材例集との対応表

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

- ・日本語の学習の機会にめぐまれない地域在住の外国人の日本語会話の上達
- ・地方での日本語支援ボランティアの底辺拡大と教え方のスキルアップ
- ・ボランティアでも教えられるテキストに準拠した副教材の作成

(2) 目標の達成状況・事業の成果

- ・この事業の3つの取り組みの成果は以下の通り

- ①日本語教室では、17ヵ国 38 人の外国人が日本語の学習をし、68 人の日本人がこの教室で日本語の教え方を学んだ。
- ②指導者の養成については、11 名の日本人が達人養成講座を受講し、実習で指導書力を付けてきた。昨年度の達人講座受講生は、THANK's 認定にほんごの達人として成長し、三木市、高槻市、茨木市、京田辺市などにボランティアの指導に赴き、ボランティアに対して実際の教え方の指導ができるまでに育っている。
- ③副教材の作成では、48 課 96 ページの教材が完成した。
この教材はさっそく 2013 年 4 月からの日本語教室で使用を開始する予定である。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

文化庁の標準的なカリキュラム案を取り入れて教材を作成する予定であったが、使いにくい部分が多く、一部しか取り入れることが出来なかった。その全体を検討した具体的な結果は資料を参照してほしい。 添付資料:⑩教材例集活用及び意見

標準的なカリキュラム案では、具体的なレベルの想定がなく、専門の日本語教師が使用するとしても、語彙と文型などのバランスがとれていない、絵がきれいでない、など相当使いにくいものであることが分かった。

生活者としての外国人に対して使用する場合、特にボランティア指導者が中心の地方においては、たとえ場面シラバスであっても、多言語を母語とする外国人学習者にどう語彙を導入するか(相手の言語が全く使用できない場合が多い)が問題である。

プロの指導者であっても、どのように使えばいいか疑問であるというのが共通の認識であった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・特定非営利活動法人 コミュニティサポートセンター(CS 神戸)との連携:当協会は、CS神戸から日本語教室の運営、組織作り、組織運営などについて随時アドバイスを受け、会の運営

を行ってきたが、今回、講座会場・日本語教室会場と一体化した新事務所への移転について、KUR(関西 UR 都市機構)への働きかけ、アドバイス、交渉など多くの場面で CS 神戸の支援を得、3月15日に THANK's の本拠地を移すことができた。

- ・公益財団法人神戸国際協力交流センター(KICC)との連携:当協会は KICC より、直接の委託を受け、年2-3回のボランティア養成講座をセンターで行っている。毎回定員がオーバーするほどの盛況で、年間数十人のボランティア希望者に HowTo の講座を行い、また、当協会で育ったボランティアが多数、KICC 登録のボランティアとして、活躍している。
- ・日本グローバルプロジェクト推進機構(JEARN)との連携:JEARN 主催の日曜日開催の日本語教室を共催し、当協会からの多くのボランティアが日本語の指導者として活躍している。
- ・他の日本語教室との連携:当協会で育ったボランティア、達人ボランティアが、海外協力グループクスクス(高槻市)、東灘日本語教室、、三田にほんごサロン、南淡路など、他団体の中核となって活躍している。これらの団体からはボランティア養成講座の依頼を受けたり、当協会ボランティアがそれらの団体に支援者として参加し活躍するなど、相互に連携の成果を上げている。

(5) 改善点, 今後の課題について

- ・平成 25 年度はサロン開催日が倍増するにもかかわらず、委託事業費が激減するので、担当講師の謝金、講座受講料の見直しなどが必要となるだろう。
- ・また、講師のスケジュール調整も難しく、達人講座修了生が中心となってボランティアの指導もできるように考えていかなければならない。
- ・達人講座では、講座を修了して終わりではなく、自己満足にならないように達人ボランティアの自己研鑽の意識を高めていく必要があると思われるが、ボランティアの場合、人によって意識の差が大きく、どのようにすればいいかを考えていく必要がある。
- ・24 年度に数ヵ所出向いて指導にあたった「出張研修会」は大変好評で、今後も力を入れて開催して行きたいと考えているが、遠方が多く、時間も交通費もかかるため、それらに行ってもらう達人ボランティアへの謝金・交通費などをどのように確保するかが問題である。
- ・地域との連携を深めるため、日本語教室の開催だけではなく、今後は地域の人も参加し、ボランティアと外国人が一緒になって作り上げる国際交流イベントの開催などにも力を入れていきたいと考えている。

(6) その他参考資料

「生活者としての外国人」に対する日本語の標準的なカリキュラム案 教材例集 活用及び意見

	教材例集	初級会話テキスト、副教材（練習帳）	教室活動（初級・中級）
(01) 医療機関で治療を受ける			
p8	印刷が悪く（発色が悪い）稚拙な絵が使用されており、イメージがつかめない。		
p10	多言語医療問診票の項目は多すぎるので、必要最低限の内容が望ましい。		
p11	活動2絵の色の選択が悪いが、内容の展開には使える。色がないほうがよい。	活動2をL19（p37～p38）のFB後の発展的練習に使える。	
p12～p13	活動3会話例での学習者の発話に、易しい言い換え例がほしい。		
p14	活動4上級レベルの学習者が多い教室でしかできない活動ではないか。		
p15	ことば・表現1絵の色が悪く汚い印象を与えるので、市販のテキストにある絵を使ったほうがよい。		
p16	ことば・表現2症状については、学習者が言いやすい医療従事者に伝わりやすいものを厳選してほしい。目で見たり検査して分かるものは医者に判断を仰いだ方が安全ではないか。		

(02) 薬を利用する			
p23	イメージをつかむ 薬、どうする？ 絵教材として使える。		P23 薬の絵を『初級会話テキスト』L19（P37～P38）L20（P39～P40）の「ことば」の追加として使える。

			飲み薬・錠剤・カプセル・粉薬の絵
p24～p29	活動1、活動2写真や絵より、指導者が実物を持って来て、説明した方が分かりやすい。		
p30 ～p31	活動4薬店・薬局 (1)会話例1 (2)会話例 (2)2 (3)会話例 3		活動4 を『中級会話テキスト』1 課「病気」の発展的会話練習に使える。
p32	活動5風邪をひいたら…	活動5 を L28 (p55 ～p56) のFB時に発表する発展的練習に使える。	活動5 のシートを『中級会話テキスト』1 課「病気」で利用し、風邪のとき、国ではどのような対処法があるか話し合う。

(03)健康に気を付ける

p41・p42	このような活動ができる学習者の日本語力があればこういった練習は必要ない。		
---------	--------------------------------------	--	--

(04)事故に備え対応する

p46～p47	絵が稚拙で色も悪く、イメージがつかめない。		
p48	使用されている品が旧式の物が多い。		
p49	この会話例ではロールプレイはできない。		
p51	活動1、2は指導ノートの教室活動のねらいでは逆に記述されている。最も重要な状況説明をする練習がほとんどない		

(05)災害に備え対応する (地震)

p56	写真は地震の説明には使える。		P56 の写真 を『初級会話テキスト』L38 (P75 ～P76)の「ことば」で参考写真として出すことができる。
p57	活動1この絵では質問に答えることができない。 特に 2 段目の絵が左右で間違い探しのようにになっているのが理解できない。		
p63、p64	活動4のキーフレーズ、ことば・表現		P64 言葉・表現 の以下のフレーズを『中級テキスト』8 課「緊急」で使える。「地震だ！助けて！逃げて！急いで！危ない！ガスを止めて！」

(06)災害に備え対応する（火事）

p73～p77	活動1通報しよう(火事を伝える)は重要な活動だが、この会話例と指導ノートでは、どのような段階を踏むかなど重要な部分が欠けているため、有効な指導ができない。 イラストも稚拙で位置詞など分かりにくい。	
---------	---	--

(07)住居を管理する

p85～p86	活動2電気・ガス・水道を申し込むには相当の語彙力があるため、1, 2 回の練習では身に付かない。このような事は学習者の家族、雇用主、学校関係者や市町村の相談員、指導者自身と一緒にいった方がいい。	
---------	---	--

p87	活動3請求書を見てみよう		活動3の5つの質問は『初級会話テキスト』L20「払います」の代入練習に使える。
-----	--------------	--	---

(08) 物品購入・サービスを利用する			
p94～p95	活動1 初級の語彙力がない学習者は買い物をする時、買いたいものを指さすか自分で選べばいいので会話例1、会話例2はあまり意味がない。 またロールプレイも学習者のレベルによっては意味がないし、学習者を店員役にする場合はそのような職業についている学習者を選ばないと意味がない。		
p97	語彙資料として使える。ただし、イラストが稚拙なので、他の写真や絵カードを用意する必要がある。		
p98～p101	別表1, 2のリストは絵や図とともに並べなければ意味がないし、学習者によって選択することも難しい。		
p102	別表3 位置・方向や指示詞は重要なので、図とともに使えるような資料が望ましい。		

(09) 金融機関を利用する			
p107	・銀行口座を作ろう 絵が稚拙で絵を見ても、状況設定が、学習者に伝わりにくい。		
p108	活動1会話例		活動1会話例を『初級会話テキスト』L29の発展的会話練習として使える。

p109～p110	活動2この絵では何をしようとしているのか分からない ことば・表現の通帳やキャッシュカードは写真や実物が望ましい。		ことば・表現の通帳・印鑑・口座・暗証番号は必要な言葉なので、『初級会話テキスト』での初級の練習に入れた方がいい。
-----------	---	--	--

(10) 電車・バス・飛行機・船などを利用する

p118	活動1会話例1 活動1発話練習		活動1の会話例1 は『初級会話テキスト』L10 の会話練習として使える。 発話練習 は『中級会話テキスト』6 課「予約」の会話練習に使える。
p119	活動2時刻表を読もう		活動2 は『初級会話テキスト』L10 の発展的練習として使える。
p120～p121	活動3		活動3会話例1 を『初級会話テキスト』L29 の発展的会話練習として使える。
p123	このような写真や絵では言葉の意味がつかみにくい。		

(11) タクシーを利用する

p135	活動2会話例2は道案内の会話として使えそうだが、やはり地図など用意して行わないと定着しない。 また、市販の地図は学習者が読めないため、簡略化したものを用意する必要があるが、実際の町が実感できるものでないと意味がない。		
------	---	--	--

(12) 徒歩で移動する

p145	活動1理解するにしても聞き返すにしても地図と語彙力が必要である。		
p146	活動2このような簡略化された地図では実感がわかないため何度練習しても実際にはあまり役に立たない。		
p148	分かりにくい写真が多い。		
(31) 人と付き合う			
p158～p159	活動3会話例 1～5の指導ノートの指導者と協力者が実演するというやり方は全く意味がない。このような自己紹介ができるレベルの学習者なら、まず学習者同士でさせて、どのような点を改善すればより良くなるかを考えさせたほうがよい。		活動3 は新しい学習者が入ってきた時の中級のウォーミングアップのモデルとして、またティータイムの学習者紹介のモデルとして使える。
p160	この絵では家族を表す親族名称が理解出来ない。 どの初級テキストにももっと分かりやすい図がある。		

(33) 住民として手続きする			
p169	活動1のような語彙は分かりやすい言葉に置き換えて意味を理解しながら進めないと意味がない。		
p170	活動2学習者が行きたいところを聞くのにこのような案内図は必要ない。行きたい部署によくできる学習者や指導者が連れていくことなどで、少しずつ覚えてもらう方が効果的だ。		

(34) 住民としてのマナーを守る

p181	活動2ゴミの区分けが、楽しく学べる。		活動2 は『中級会話テキスト』5 課「謝罪」の「もっと話そう」で使える。学習者の住んでいる場所によってゴミの出し方も違うので、比較することもできる。
p182	活動3		活動3 は『中級会話テキスト』5 課『「謝罪」の活動2の後の活動として使える。ゴミの出し方だけでなく曜日も違うので、国の話など発展的な話ができる。

(35) 地域社会に参加する

p190	活動1このような活動はコミュニケーション能力をつけるためのものだが、学習者に意図が伝わりにくい。指導者にある程度の知識がないと、日本人でも効果が得られない。		
p193～p195	地域社会は様々な活動があるので、指導者が学習者を誘ってまず参加させることが重要だ。その中で、どのような言葉を覚えればいいのか、どのような練習をすればいいのか、考えるべきだと思う。		

(44) 余暇を楽しむ

p207	活動3(1)①	活動3(1) はL21 (p41～p42) の書く前の追加口頭練習に使える	
p209	余暇に関する語彙には役立つ。		

(45) 郵便、宅配便を利用する

p217	イメージをつかむことが出来る。		
p218	活動会話例1、会話例2		活動1会話例1、会話例1は初級L2、L3の発展的会話として使える。
p220	活動2〈やり取り〉の例などは必要なく、不在配達通知から何を読み取り、どう対処すればいいかを教える必要がある。		

(46) インターネットを利用する

インターネットは、母語で利用することが可能だし、学習者がどの程度インターネットを利用するかにもよるため、コンピュータの専門家が個別に対応した方がよい。

(47) 電話・ファクシミリを利用する			
p239	色々な形の公衆電話があることが分かる。		
p24～p241	活動1会話例1、会話例2は続きを考えるものだが、会話例4の続きの例として出ているものは学習者が言えるようなものではない。		
p242～p244	このようなロールプレイはモデルがないとできない。		
p246	ビジネス会話はビジネス会話のテキストを使用して、学習者に応じた練習をした方がよい。		